



思いやりやいたわりの心を学ぶ

平泉幼稚園・平泉保育所で人権交流会

10月5日、平泉幼稚園と平泉保育所の4・5歳の在園児約70人を対象に人権交流会が開催されました。大型紙芝居「ずっとともだちでいたいから」を人権擁護委員が読み聞かせ、思いやりやいたわりの心を持つことの大切さを伝えました。園児たちは聴き入るように紙芝居を見ており、終了後には「私もみんなに優しくしてあげたいです」と感想を発表していました。



交通事故事故ゼロ1年を達成

県警本部長からの賞賛状伝達式

9月20日に当町が交通事故ゼロ1年を達成したことを受けて、9月22日に上野太郎一関警察署長(写真左から4人目)が役場を訪れ、青木町長へ県警本部長の賞賛状を伝達しました。伝達式には町交通指導隊、交通安全母の会、一関地区交通安全協会から代表者が出席。青木町長は「町を挙げて関係団体と連携した活動が達成につながった。事故死ゼロを継続したい」と決意を新たにしました。



10年間の運行に感謝

快速列車ジパングがラストラン

東北本線の盛岡—ノ関間の定期運行を9月末で終えた快速列車「ジパング」のラストラン記念セレモニーが、10月10日に平泉駅で行われました。ジパングは平成24年4月から運行が始まり、車内には映像などで平泉の文化遺産を演出する仕組みがありました。平泉駅には関係者や町民ら50人が集まり横断幕や手旗を掲げ、10年間にわたり観光振興に活躍した列車に感謝の気持ちを込め見送りをしました。



久々の再会で楽しい時間

8区でふれあいサロンを開催

10月10日、8区公民館で地元住民の交流の輪を広げることを目的とするふれあいサロンが開催され、参加者が歌謡や舞踊を鑑賞しました。8区のふれあいサロンは例年温泉に行っていましたが、昨年は感染症の影響により中止。2年ぶりの開催とあって参加者からは「自粛期間が続き久しぶりにみんなの顔が見れてうれしかった」など再会を喜ぶ声が聞かれました。



黄金色に実った稲を収穫

富岡八幡宮の神饌田で抜穂祭

平泉水かけ神輿を通じて親交が深い富岡八幡宮の祭祀で神前に供えるコメを収穫する抜穂祭が、9月26日に花立地内にある神饌田で営まれました。抜穂祭の神事には、水かけ神輿を開催している平泉総社神輿会の会員や来賓ら30人が出席。同神輿会の会員5人が白の浄衣に烏帽子姿で、神饌田に実った稲を刈り取りました。今回収穫したコメは、11月の大嘗祭で富岡八幡宮の神前に供えられます。



夕暮れ時の交通事故防止へ

ライトの早め点灯運動

10月20日、町交通安全対策協議会の主催で薄暮時の交通事故防止を呼び掛ける「ライトの早め点灯運動」を国道4号線平泉バイパスで実施しました。この活動は、一関警察署をはじめ町交通指導隊や交通安全母の会などが参加し薄暮時の交通事故を防ごうと毎年実施。参加者は「ライト点灯は早めに」などが書かれたのぼりをドライバーに見えるように掲げて啓発活動をしました。



町事業に活発な意見や質問

地域懇談会がスタート

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催を延期していた地域懇談会を10月1日から開始しました。懇談会には、青木町長、齋藤副町長、吉野教育長、担当課長らが出席し、第6次総合計画、大型事業の進捗状況、公共交通網の形成をテーマに12月1日まで21行政区で意見を交わします。意見交換では、スマートインターチェンジの駐車場の利活用など町事業に活発な意見や質問が出されました。

